

平成30年 公認会計士論文式試験 会計学(午後)

講評とボーダーの予想



Produced by K. Watanabe

【全体の講評】

出題形式	過去3年間と大きな変化はない 第3問 計算問題・理論問題のセット×2 第4問 理論問題(一部数値の算定を含む) 第5問 計算の総合問題と関連する理論問題
難易度	計算はやや易しめ、理論は昨年並み 第3問 計算は易しいが理論が書きにくい点で昨年と似ている 第4問 分量が減少(4問46行⇒3問39行)した 昨年と比較すると書きやすい問題が目立つ 第5問 計算は昨年よりも易しく、この4年間で最も解きやすい 理論は知識と現場対応力の双方が必要で、易しくはない



昨年と比較すると全体ではボーダーが少し上がりそう

【各問検討：第3問】

素点ボーダー：H27…35・H28…38・H29…42

純資産会計・株主資本等変動計算書	
問題1	計算 (9箇所) <ul style="list-style-type: none"> ●実質的に純資産会計の問題であり、全体的に易しめ。 ●それでも、④(知らないといけない)、⑤(引っ掛かりやすい)、⑦(推定あり)、⑨(集計項目)は正答必須とはいえない。 ●難易度は高くないが、できる人でもいくつかは落としそう。
	理論 (3行) <ul style="list-style-type: none"> ●過去の導入理由を問う問題であり、普通は知識を有していない。 ●作文大会になり、得点は低いところで固まりそう。
個別キャッシュ・フロー計算書	
問題2	計算 (9箇所) <ul style="list-style-type: none"> ●平易な問題であり、普通に満点が狙える。 ●この問題での取りこぼしは痛く、失点を極力抑えたい。
	理論 (3行) <ul style="list-style-type: none"> ●短答対策で扱う知識論点であり、その記憶から①と②は書きたい。 ●③は普通は知らない論点であり、書けなくても構わない。
総括	一言で言えば計算勝負の問題。計算が易しく理論が難しかったため、「計算ができた人が有利」になるのではなく「計算ができなかった人が不利」になる構造。計算で引っ張るには15箇所程度ほしいが、10箇所を割ると苦しい。1問が重い。

計算は12～13箇所、理論は3～4割程度がボーダーになりそう



【各問検討：第4問】

素点ボーダー：H27…31・H28…24・H29…28

金融商品会計	
問題1	問1 (1) (3行) <ul style="list-style-type: none"> ●会計基準に書いてあるため、探して書き写すだけ。正答必須。
	問1 (2) (9行) <ul style="list-style-type: none"> ●実現の2要件は必ず書きたい。 ●実現の2要件を満たさず⇒しかし売却に事業遂行上の制約なし⇒実現に準ずるの流れて書けたかどうか。 ●この流れて書けていない答案も少なくないと思われる(やや難)。
	問2 (3行) <ul style="list-style-type: none"> ●短答でよく問われる知識論点の論拠を問う問題。 ●直ちに売却しない点を書ければ十分だが、正答必須ではない。
	問3 (6行) <ul style="list-style-type: none"> ●評価方法は会計基準に書いてある。知っていれば正答できる。 ●論拠は手薄な人も多いと思われる。間接的に保有している点を記述できれば十分。平均点は高くはないだろう。



【各問検討：第4問】

素点ボーダー：H27…31・H28…24・H29…28

純資産会計		
問題2	問1 (8行)	<ul style="list-style-type: none"> ● 論点自体は典型であり、高い精度が求められる。 ● 問題文の指示に従い、「概念フレームワーク」を踏まえ、純利益情報の重要性の観点から説明するため、①純利益の重要性、②株主資本と純利益の関係(正味ストック)の指摘は必須。
	問2 (4行)	<ul style="list-style-type: none"> ● 典型論点。高い精度が求められる。 ● 行数が短いため、純資産の部に表示する理由は資産性・負債性がなく、株主資本と区別する理由は株主資本と純利益の連携関係から言及するとコンパクトにまとまる。



【各問検討：第4問】

素点ボーダー：H27…31・H28…24・H29…28

税効果会計		
問題3	問1 (数値)	<ul style="list-style-type: none"> ● 税率を選ぶだけ。繰延法が適用されることを知っているか問う問題。正答必須。
	問2 (6行)	<ul style="list-style-type: none"> (1) ● 当然に知っているべき知識。正答必須。 (2) ● 改正基準でも論点となっており、厚く対策していたであろう論点。 ● 制度上繰延法が採用されている論拠が問われているため、指針132項に示されるそれぞれの考え方ではなく、「未実現利益の消去の場面においてなぜ資産負債法ではなく繰延法が採用されるのか」という角度から記述する。しっかり書きたい。
総括	<p>後半2問が難問だった昨年と比較すると、書きやすい問題が多く、しかも分量が少ない。比較的高いレベルでの精度勝負だろう。会計基準から書き写すことで得点できる問題もあり、気付けた層とそうでない層で差がつく可能性がある。</p>	



多くの方が手ごたえを感じていそうな問題
5割弱程度がボーダーになりそう

【各問検討：第5問】

素点ボーダー：H27…10・H28…21・H29…27

連結会計		
問題1 (計算)	問1 (2箇所)	●段階持分法の知識があれば正当可能。正答必須とはいえない。
	問2 (4箇所)	●①・②は正答必須。 ●③は難しい、④は仕掛研究開発を正しく処理しなければならない。
	問3 (4箇所)	●すべて正答必須。
	問4 (8箇所)	●A社が絡む①・③・⑥は難しい。 ●他はできるだけ正答をかき集めたい。
	問5	(1) (6行)
(2) (6行)		●(1)よりは書きにくい。持分比率、支配の喪失、持分法へ移行することなどが書ければ十分。



【各問検討：第5問】

素点ボーダー：H27…10・H28…21・H29…27

問題2 (理論)	連結会計・持分法会計	<ul style="list-style-type: none"> ●計算で問われている論点から探し出して記述する現場対応型問題。 ●仕掛研究開発の指摘は困難であるため、時価評価・段階取得・取得関連費用のうちから2つ以上指摘したい。 ●指摘さえできれば、その後の記述はあまり差がつかないと思われる。
	企業結合会計	<ul style="list-style-type: none"> ●問題の意味を読み取ること自体難しい問題。 ●会計基準を参考に1つは指摘したいが、白紙の答案も少なくないと思われる。まったく書けなくても問題ない。
問題3 (理論)		
総括		<p>計算はここ4年間でもっとも分量が少なく解きやすい問題が出題されたが、仕掛研究開発や取得関連費用、関連会社におけるAOCIなどが含まれているため、点数は伸びにくい。理論は会計処理の説明や連結・持分法比較など、書きにくいものが多いため、計算以上にダンゴ状態になりそう。理論が差が付きそうになり問題であるため、計算勝負(ただし「計算ができた人が有利」になる構造)と考えられる。計算で18箇所中12箇所以上正答できるとかなり有利か。</p>



計算は7箇所、理論は3～4割程度がボーダーになりそう